



# J A津安芸は今後も 米の生産調整を継続し 進めてまいります！

今後も生産調整への  
ご理解とご協力をお願い致します。

## ◆30年産以降も米の需要に応じた生産が必要です！

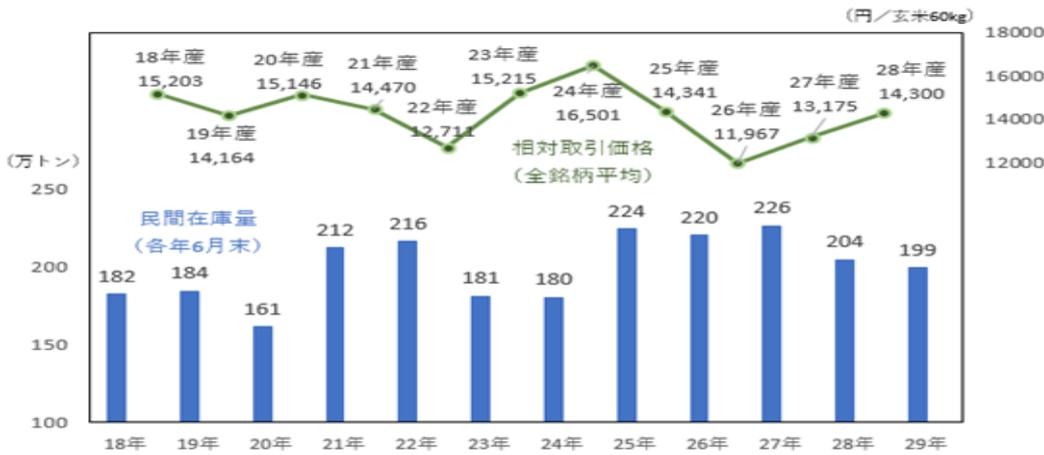
全国の主食用米の消費量は毎年約8万t減少しています。

生産量も需要に合わせて調整をしていかななくては、米価が大幅に下落し、農業所得の減少が想定されます。

行政による生産数量目標の配分はなくなりますが、三重県農業再生協議会を中心に津北地域農業再生協議会（地域の農業者の代表、津市、JA等の関係機関で構成）から、今後も「生産量の目安」が提示されますので、この数字に沿った作付けへのご理解とご協力をお願い致します。



## ◆在庫量が多いと米価は下がる傾向に！



平成18年以降の民間在庫量と相対取引価格との関係を示した上記の表では、民間在庫が**200万tを超える**と**相対取引価格が低下**する傾向があります。

**米価維持のためには、引き続き需要に応じた生産**が必要です。

## ◆経営所得安定対策は継続します！

平成30年産以降も農業者の経営の安定に資する政策は継続されていきます。

- ◆水田活用の直接支払交付金【戦略作物助成や産地交付金】は継続します。
- ◆畑作物の直接支払交付金【ゲタ対策】は継続します。
- ◆米・畑作物の収入減少影響緩和対策補てん金【ナラシ対策】は継続します。

※米の直接支払交付金は30年産から廃止されます。



## ◆生産数量の目安や 需給に関する情報を提供していきます！

国は、30年産以降も、引き続き全国ベースの需給見通しを提示するとともに、地域ごとの作付意向や作付状況、価格動向、産地銘柄別の需要量等を公表するなど、地域が需要に応じた生産に取り組めるよう引き続き支援します。

三重県農業再生協議会及び津北地域農業再生協議会では、全国の需給状況に基づいて「**生産量の目安**」を作成し提供してまいります。

### ◆お問い合わせ先

J A 津安芸  
 営農対策部 営農企画課：TEL059-229-3502  
 河芸営農センター：TEL0120-085040  
 芸濃営農センター：TEL0120-056041  
 美里営農センター：TEL0120-057043  
 安濃営農センター：TEL0120-059044  
 津北部営農センター：TEL0120-057045  
 津中央営農センター：TEL0120-057046  
 津南部営農センター：TEL0120-059047

